

# 住みやすい街づくり 川崎市長に提案

## 車座集會 4学生が参加

川崎市民と市長が対話する「区民車座集會」に、大迫拓真さん(経済3)、河崎太樹さん(経済2)、佐々木龍治さん(文3)、鈴木雄大さん(経済2)の4人が参加。他大学の学生6人とともに福田紀彦市長、中村孝也多摩区長に住みやすい街づくりのための提案を行った。

車座集會は毎月1回開催されており、26回目の今回は、多摩区内の3大専大(専大、明治大、日本女子大)の学生が意見を述べた。



専大生ら10人が福田市長に提案を伝えた

公務員を目指しているという佐々木さんは自らの経験などから、車の運転マナー向上について「啓発活動の充実を」と提案。その後のディスカッションでは大迫さんらが危険運転に遭遇した体験などを話し、福田市長は「幼稚園や小学校などでは交通安全教室を数多く実施しているが、ディスカッションを通して20代、30代への啓発活動も大切だと気付かされた」と心じた。

車座集會を終え、佐々木さんは「日常的に感じ

た。新しい企画につながればうれしいと語った。大迫さんは「本学のボランティアサークル『樹々の会』で子ども

ちと触れ合い、感じたことを提案した。他大学の学生の意見も聞くことができ、有意義だった」と話した。

## 専大附属 高校生たちの 公開模擬裁判

専大松戸

専修大学附属高校と専修大学松戸高校の生徒による公開模擬裁判が11月



審理の行方を見守る高校生

5日、神田キャンパスの法廷教室で開かれた。高校生78人が参加。裁判官、検察官、弁護人役を担当し、殺人未遂事件を審理した。

本職の弁護士からアドバイスを受けつつ、被告人質問や被害者の尋問を行った。被害者証言の矛盾を突きたい弁護側と、それを防ぎたい検察側のやり取りは、「異議を出し合う白熱したものになった。

裁判官の判決は無罪。審理を傍聴した生徒も僅差で無罪の判断だった。

この結果を受け、東京弁護士会の弁護士が生徒たちから感想や意見を聞きながら、今回の争点や実

際の様子などを解説した。

## 外国語のススメ 外国語教育研究室

- 52 -

岡村 陽子 人間科学部教授

みなさんは留学をしたら何がしたいですか？ もちろん英語を極めたいとか、専門の学問を究めたいというメインの目的はあるでしょう。でもそれ以外にも目的があってもいいですよ？ 私が在外研究でイギリスに1年間滞

## 留学の目的はいろいろあっていいと思うよ

在したのは神経心理学の研究をするためでしたが、ほかに楽しみにしていたことがいくつかあり、その一つがアガサ・クリスティをたどる旅をすることでした。わたしは子どものころからクリスティの大ファンなのですが、やはりなんといってもクリスティが生まれ育ったトーキーというイギリス南西部の町が私の憧れでした。そして念願かなって行った旅は、今思い出しても胸の躍る夢のような時間でした。

う新鮮な驚きを感じることができました。留学の目的は勉強と思う人もいるかもしれませんが、いろんな興味や知識があることは海外の文化を楽しむ、海外の人々につながるために大切です。日本にいるうちにいろんなことに興味を持ってください。そして目的は一つといわず、いくつもいくつも達成してきてください。(主な担当はリハビリテーション心理学) ※短縮版。全文はCALL教室ホームページで

## 商・奥瀬ゼミ3年次生チーム 枡の燻製キット考案 部門賞1位・毎日新聞社賞



重ねた枡を使った燻製キット(手前)を考案し、「Sカレ」で毎日新聞社賞を受賞した高橋さん、飯田萌さん、飯田里彩さん(左から)

### ゼミ対抗「Sカレ」

枡でいぶした燻製をどうぞ。商学部奥瀬喜之ゼミ3年次生チームが、部門別1位と、全9部門の中から選ばれた毎日新聞社賞を受賞した。枡を使った燻

製キットを考案、商品化を進めていく。

コンテストは「Student Innovation Collection (Sカレ)」。11月27日、プレゼンテーションと審査が行われた。

Sカレは商品企画をFacebookで公開、寄せられたコメントなどを基に改善していく。秋の大会でコンテストを競い、約1カ月半後の大会で商品化権獲得を目指し最終プランを提案する。今年26大学31ゼミが競った。参加2回目の奥瀬ゼミからは、3年次生が3人1組となり5チームがエントリーした。

挑戦するテーマは段ボール、マグネットなどさまざま。そのうち(有)大橋量器(岐阜県)の「枡技術商品部門」に手を挙げたのは、飯田萌さん、飯田里彩さん、高橋礼奈さんのグループ。6月から活動を始め、まな板やあぶりセットなどアイデアを出し、最後にたどり着いたのが燻製キットだった。

「キャンプで燻製を作ったことがあり、枡でもできるのではないかと考えた」と飯田萌さん。9月から試作品作りに取りかかった。いぶす際に枡が焦げてしまうという課題もあったが、企業側から枡内部に石こうを流し込むというヒントをもらい、前に進むことができた。

完成したのは最終発表の直前。「Masbook」と命名された商品は一升枡の中に、五合枡、一合枡、三合枡が入っており、大きな二つの枡と網、スモークウッドで燻製する。小さな枡はお酒用という遊び心たっぷりの商品となった。

さっそく卵とチーズを燻製。飯田里彩さんは

「初めて作った燻製は本当においしかった」と笑みをこぼす。

結果、枡部門11ゼミ中最高の評価を得た。高橋さんは「商品開発の大変さとやりがいを実感できた」と振り返る。

枡という日本伝統のものでありながら、若者にはなじみの薄い商品をどう活用したらいいか。飯田萌さんは「ほかにはない、楽しい商品を目指した」と語る。

来年6月に商品化の予定。来秋の大会で販売実績に基づき総合優勝が決まる。酒好きな人はもちろん、プレゼントや外国人観光客のお土産として、多くの人がMasbookを手にとってくれる。3人の夢は大きく広がる。

## 生田と神田で防災訓練



大地震など災害に備えて防災意識を高めてもらうと11月14日から18日まで、生田・神田両キャンパスで防災訓練が行われた。

期間中は日に1度、各教室に緊急地震速報が流れ、机の下に隠れて身を守る初期安全行動訓練(シェイクアウト訓練)が行われた。最終日には昨年導入された安否確認システムの運用訓練も行われ、実際に操作方法を体験した。

訓練用の消火器で消火活動を体験する学生=生田キャンパス



消防隊員が応急担架での搬送を実演=神田キャンパス

16日に両キャンパスで行われた各種体験訓練は多摩消防署、神田消防署が協力。非常食が配布され、消火器の使い方を学ぶ模擬消火、AED訓練が行われた。神田ではこれに加え、煙の中で移動を体験する煙訓練、日常的なものを使用した担架の作り方を学ぶ応急担架製作を実施。多くの学生が参加し、緊急時の対処法を学んだ。